

ひらく

●一点を支点としてひらく●窓・扉をひらく●道をひらく●口・目をひらく●花がひらく●運をひらく●文化をひらく●インターネットをひらく●新聞・本をひらく●講座・会をひらく

—— 未来をひらく、心をひらく ——

特集

今(コロナ禍)の暮らしだから
わかった大切なこと

アンケート 81人に聞きました

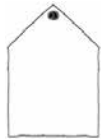
2020.10

47

男女共同参画社会をめざす

今(コロナ禍*)の暮らしだから わかった大切なこと

アンケート 81人に聞きました



気づいたこと

毎日のニュースや新聞でも、人との会話でも「新型コロナウイルス」という言葉を聞かない日はありません。「自粛」と言われたり、言ったりして、小さな子どもから大人まで誰もが窮屈な生活をしてきました。当然、困ったことはありましたが、その中でもなにかに気づいたり、なにかできるようになったことがあったと思います。『ひらく』では令和2年7月13日から30日にかけて81人にアンケート調査をしました。

- 1 気づいたこと
- 2 困ったこと
- 3 できるようになったこと

保育園が好き！
(ほいくえんせい)

ほくはおしゃべり
なのか・・・。
(ようちえんせい)

おうちにいるのは
たいくつだった。
(小学3年生)

リモートワークは
やればできる。
(50代)

ねえちゃんど
けんかがあおくなる。
(ようちえんせい)

夫と二人暮らし。夫は友人たち
との飲み会が無くなり晩酌
と夕飯の時間が長くなりメ
ニューの品数も多くなり、私
は台所に居る時間が長くなり
ました。夫は機嫌が良いので
すが、私は窮屈で気分のむら
が激しいです。(60代)

学校行かない
と楽しくない
ということ。
(小学5年生)

家族のコミュニケー
ションが増えた。
(20代)

図書館、地域セン
ター、公民館等での
活動がいかに重要か
がわかった。(40代)

DVや児童虐待の
ニュースがふえてい
て、ますます女性
センターが必要だ
と
思った。
(70代以上)

子育てについて
いかに「学校」や「妻」
に頼っていたのか。
親が子どもの勉強の
面倒を見ることは本
当に大変です。(40代)

*コロナ禍：ワクチンや治療薬がないまま新型コロナウイルス感染症が世界中に蔓延し、社会・政治・経済の面で人々の生活が非常に不自由・困難になった状況下を指す。





「でもコロナだから
しかたないよね。」が
口ぐせになっていた。
(ほいくえんせい)

お兄ちゃんの
白毛がふえた。
(小学3年生)

普段忙し過ぎた
こと(子どもの
習い事等)。
(30代)

ほんとうによく頑張っ
て、マスク、手洗い、消毒に三密を
回避している。日本人偉い。
テレワークなど慣れてくると、
仕事って実はそんなに拘束さ
れるものではないのでは?生
活を楽しもうと思った。(60代)

家の中に遊べるも
のがいっぱいある
ことに気づいた。
(小学5年生)

おとなのひとがあうち
でおしごとしてるのを
はじめてみた。こうやっ
ておしごとしてるんだ
とおもった。
(ようちえんせい)

どこの時間の電
車にも朝はある
程度人がいる。
混んでる。(10代)

困ったこと

大学生活。大学に入学
したが、履修登録やオ
ンライン授業、初めて
のことが多く、ただで
さえパソコン操作も慣
れていないので、いま
だに困っている。(10代)

7月の連休に沖
縄に行きたかつ
たのに東京人は
嫌われているの
でやめた。(60代)

帰省ができず
お葬式に出られ
なかった。(40代)

世の中にはオンライン
ではできない仕事もあ
る。だから、私は毎日
出勤する。(40代)

精神的に落ち込ん
だ。手洗いで手が
荒れた。(60代)

学校に行けなかつ
た。うんどう会や
学ばい会ができな
い。(小学3年生)

外出を自粛するため買い出しや
遠出ができなくなりました。
日頃は学校などで運動して
いたが、自粛のため運動ができ
なくなり結果的に体力の減少に
なりました。(10代)

エンターテインメント業界で
のみアルバイトをしている
ため、仕事がなく収入がな
いこと。また、大好きで応
援しているアイドルのコン
サートが続々と中止にな
り、その悲しみの行き場が
ないこと。(20代)

5歳2歳の兄弟
喧嘩の多発。
(30代)





困ったこと

みんなにあえなく
てちよつとさみし
かった。
(ようちえんせい)

例年ならばすぐにクラ
スに馴染んでいるはず
だったが、あまり話し
たこともない人と話が
できず、クラスに馴染
めていない。(高校生)

友達と遊べない。
学校に行けない。
先生と会えない。
習い事に行けない。
(小学3年生)

2人の子どもを抱えていて
児童館も地域センターも閉
まつていて行き場がなく、
しかも公園の遊具もテープ
が貼られて使用できず本当
に困った。
(小さな子どもの親)

友ダチと遊べない。
ディズニールランド
に行けない。(10代)

マスクや消毒薬が
手に入らなかつ
た。電車に乗って
仕事に行く家族が
心配！(年代?)

不要不急を決める
のは自分だとはい
え、世間の目を気
にする自分に困っ
た。(70代以上)

できるよつに なったこと

たくさん
ねられた。
(10代)

テレワークになり
家族揃ってご飯が
食べられるよつに
なった。(30代)

手洗いの徹底。
(小学4年生)

あるすばん。
(小学3年生)

あるもので暮らすという考え
方。今までの生活への感謝。
新聞を丹念に読む(特に政治、
経済、外国の情勢)。社会のあ
り方を考えてみるよつ。(50代)

オンライン会議が
できるようになつ
た。LINEなど
でビデオ通話も。
(50代)

字が書けるよつに
なつて、お手紙を
たくさん書いた。
箸が使えるよつに
なつた。
(ようちえんせい)

暇つぶしの方法を
少し身につけるこ
とができた。(20代)

せんたくものほし、
おりようりのあつ
た。グラグラした
はをじぶんでぬいた。
(ようちえんせい)





トランプやけん玉を覚えた。俳句を覚えた。
(小学6年生)

英会話のオンラインレッスン。夫は電車通勤だったけど、自転車通勤に変えた。(30代)

いつもより機械を使う機会が増えた。タブレット、スマホ、パソコンなど。
(小学3年生)

マスクなどのハンドメイド作品を販売するようになりました。Zoomを通して、ミーティングや、レッスンができるようになった。(40代)

衛生面に気をつけるようになり、人に優しくなった気がします。感染しない!! 感染させない!! (60代)

小さな我が家のベランダを整理し、そこで家族でピクニックができるようになりました。(50代)

スマホを活用できるとなりました。(70代以上)

6kg減量というダイエットに成功。フライパンを使った料理。(10代)

小・中学校の友人とテレビ電話でたくさん話せた。(高校生)

広報誌『ひらく』がめざす社会は暮らしやすく生きやすい社会です。どうすれば、そのような社会になるのかを考えて、私たち男女共同参画推進実行委員会は『ひらく』の企画・編集をしています。ウイルスが流行してもしなくても、社会はそうであってほしいと思います。

アンケート(紙・WEB)に回答した方々も同じように考えていることが言葉の端々から伝わり、仲間を見つけた気持ちになりました。ご協力ありがとうございました。

マスク不足を助けよう!

大橋 利香さん



小平市でハンドメイドイベントを開催している「わかたけマルシェ」の主権者、大橋さんにコロナ禍での取り組みについて伺いました。

マスク不足が深刻な2020年3月、作家さんたちにマスク作りを呼びかけました。600枚を超えるハンドメイドマスクを集め、マスクの販売会を市内の飲食店であえぐ〜 タコスメルカドにて開催。

その後も、花小金井駅前のHANA cafe styleにて、マスクの販売を今に至るまで続けていらっしやいます。

ママ目線のデザイン性や使いやすさを重視した質の良いもので、特に子ども向けマスクが不足していた当時、大変喜ばれ感謝されたそうです。

作家さんも使命感を持ち、子育てや家事の傍ら、懸命に製作し続けています。多い日は一日200枚、現在でも50枚売れ続けており、地域の人にとっても喜ばれています。(木)



ひらくの言葉 「Black Lives Matter」 黒人の命は大切 (ブラック・ライヴズ・マター)

安心できる生活とはなんでしょうか。安定した収入、ホッとできる住居、約束された社会保障…そんなものが思い浮かぶかもしれません。しかし、世の中には生まれ持った特性を理由に、このような生活を送ることができない人々がいます。

アフリカ系アメリカ人はその一例です。2020年5月、米国警察が彼らへ残虐行為を行ったという事件をきっかけに、黒人差別に対する抗議運動を指す「Black Lives Matter」という言葉が話題となりました。そして米国を中心に、ムーブメントに賛同した様々な人種の人々がこの言葉を掲げてデモ運動を行っていました。さらに「Black



Lives Matter」は米国でのデモ運動だけでなく、SNS上での国境を越えた抗議運動に発展し世界的に影響を与えました。これらの運動を通し、黒人差別への問題意識は確実に高まったことでしょう。

この問題は、女性差別などの様々な差別との多重構造になっており、人種差別への問題意識のみを持てば解決できるかということ、疑問が残ります。

差別はそれ単体ではなく、他の差別と複雑に絡み合って構成されています。そのことに留意して私たちは差別問題に取り組んでいかななくてはなりません。

(F)



『ひらく』の書棚



小平市男女共同参画センター“ひらく”にある本の紹介です。

作者によると、前者を教えるくられる本は世の中に山ほどあるが、後者についての本は驚くほど少ないので、この本を書いたそうです。小学校高学年から中学生くらいが対象のようにみえますが、すっかり大人になった我々が読んでも「なるほど」と思う内容です。何故だか、高校時代の倫理の授業を思い出しました。(幸)

五味太郎といえば絵本作家のイメージですが、本書は児童書です。それも、子どもたちからの疑問、悩み、希望に対しての人生相談のような指南書なのです。もちろん、独特な味のあるイラストも随所に描かれており読みやすい作りとなっています。

このタイトルに違和感を覚えませんでしたか。よく耳にするのは「じょうぶな体とかしい頭」ですが、本書はその逆さまで「じょうぶな頭とかしい体」がテーマです。



『じょうぶな頭とかしい体になるために』
五味太郎 著
〈フロンズ新社〉
1400円＋税

生活保護だけでなく、母子家庭の貧困や家父長制の名残など、様々な家族の問題について考えるきっかけとなるような一冊になると思います。(T)

受験で難関私立中学校に合格したものの、上手く馴染めず公立中学に転校した和真と、同じクラスで生活保護を受けている樹希との交流を通じて、「生活保護」の実態と家庭環境に悩む年少少女の心情がダイレクトに描かれています。

両親の期待に応えなければならぬというプレッシャーを抱えながら過ごす和真と、生活保護の受給を理由に将来の夢を諦めかけていた樹希。どちらも自分を不幸だと思いつつ窮屈に生きる二人ですが、互いの家庭環境を知り、理解しようとすることで自分自身のやりたい事や夢ともう一度向き合っていきます。

安田夏菜 著
〈講談社〉
1400円＋税

『せいじん』



行ってみました

ゆうやけ 子どもクラブ



遊びや生活をつうじて、人として育つ子どもたちの姿を大人たちの奮闘とともに描いたドキュメンタリー映画(井手洋子監督)は、全国各地で上映されました。

旧小川公民館の北側にある入口から入ると、女性と子どもが迎えてくれました。階段を上がって2階の広い部屋に行くと、小さい子どもから180センチはありそうな高校生まで、10数人の子どもがくつろいでいました。元気に駆け回っている子どもいれば、ひとりに頭をのせて休んでいる子、女性職員とおしゃべりしている女の子、ひとりです書類を真剣に読んでいる男の子、それぞれ違った過ごし方をしていました。1978年から40年以上、ゆうやけ子どもクラブは知的障がいのある子どもや自閉症の子どもたちの放課後、学校が休みになる土曜日や夏休み、冬休



み、春休みの生活を支え、成長を助ける活動をしています。最初は4人だった子どもが今では70人に増えて、3つの施設で活動しています。職員は保護者と協力し、コンサートやバザーを開催して広く市民にアピールする活動もしています。2019年、ドキュメンタリー映画を上映して4000人以上の方が見たそうです。子どもたちは、ここで生活しながら、他の子と気持ちの折り合いをつけたり、思いを伝えたりしながら育っていくのです。それを支えるのが大人の役割ですが、明るい笑顔で話してくれる子どもを見ると、職員でなくても何かしてあげたくくなります。この思いが子どもたちの成長を支える力になるのでしょうか。

ゆうやけ子どもクラブに行くと、わかった気がしました。(北)

「表紙について」

撮影 長塚秀人



コロナ禍によって従来の夏と大きく変わった今年の夏。たくさん思い出ができるはずの子どもたちの夏休みも同様です。

そんな中、NPO法人小平こども劇場*が、例年企画しているキャンプのかわりにと、きつねっばら公園子どもキャンプ場で一日限りの思い出のイベントを開催しました。

いつもと違う夏と大人は思っても、子どもにとっては特別な一度きりの夏。

陽の光を浴びて、とびっきりの笑顔で遊ぶ子どもたちは、いつもと変わらず輝いていました。(N)

*NPO法人小平こども劇場：幅広い年齢での遊びや交流を大きな柱に、子どもだけでなく大人もともに育ち合える多彩な活動を地域に創りだしている文化団体です。

編集後記

特集のアンケートを見ると、大変な状況でも皆さんは、工夫して生活されていたことが分かりました。

ステイホームで、図らずも多様な働き方が可能になりました。その反面、人とのかわりが少なくなり、心配にもなりました。安心して日常生活を送れるようになって欲しいです。(A)

新型コロナウイルス感染拡大の影響で大学の授業がオンラインになり、両親はテレワークをしていました。しかし自宅にいる時間が平等になっても、家庭内の役割も両親の仕事上での役割も全く変化が無いと感じました。このことから、社会活動を男女が平等に行うためには「社会化された男女の概念を打破する」という視点が必要なのではないかと気づきました。

当委員会には今年加入しましたが、先述した視点を広められるように、これから頑張ります！(F)

ひらくはココにあります。

男女共同参画センター「ひらく」、公民館(11館)、図書館(11館)、地域センター(19館)、大学(6か所)、福祉会館、市民総合体育館、児童館(3館)、市内保育園、幼稚園、健康センター、健康福祉事務センター、市役所、東部・西部出張所、郵便局(17か所)、市内各駅(7か所)、ふれあい下水道館

小川町 手作りのクッキーの店歩、商工会館、JA東京むさし、小平警察署、小平消防署小川出張所、南台病院、和泉処

小川西町 佐野商店、たましん小平支店、NMCギャラリー、小川ホーム

小川東町 キャラリ-青らんぎ 上水本町 アトリエ・パンセ

学園西町 ヒューティ-サロンサンローズ、梁里館、美容室ヘア-グーラッシュ、本間歯科、ヘア-サロンサンライズ、笹間住宅資材、たましん一橋学園支店、学園接骨院、国際交流協会、しらかぎ鍼灸治療院

学園東町 日本堂文具店、梅の里、アクティブスタジオ、りそな銀行小平支店、おだまき工房、きそ歯科クリニック、ふく歯科、寝具センター丸新、美容室Je、どりあん、一橋鍼灸接骨院、お化粧のしのだき、ミサワリフォーム株式会社、Kimamaya T&K

美園町 多摩済生病院、カフェガラス、珈琲の香、POEM(ぽえむ)、永田珈琲、ルネこだいら、シャンブル、子育てサポートきらら

仲町 小平消防署 大沼町 ガスミュージアム

花小金井 公立昭和病院、Cafe & Deli hug

広報誌「ひらく」の最新号はこちら →



小平在住・在勤・在学の女性を訪ねて、
そのいきいきした様子や元気の素を伝えます。

いきいき レディ 45



小柄で可愛らしいというのが吉川さんの第一印象でしたが、『障がいのある人もない人も共に笑顔で生きられる社会を作りたい』というメッセージを熱く語ってくれました。

その原動力は家族にありました。吉川さん(25歳)には20歳の障がいのある妹さんが2人と小学5年生の妹さんがいます。高校時代からダンスに魅了され、専門学校卒業後、自分がリズムに合わせてダンスをしたり、イベントのMCをすると、目が見えず話すことも難しい妹たちが、とても喜んでく

笑顔と元気を届けよう

FaiRy(フェアリー)代表/エンターテイナー/ダンスインストラクター
吉川 莉奈 (よしかわりな) さん

れるということに気づいたそうです。障がいのある妹の友人にも、気軽に余暇を楽しめる方法や場所を提供したいと考え、『FaiRy～障がいのある人となない人が一緒に踊るエンターテイメントチーム～』を立ち上げました。

活動は主に公民館でおこなっていましたが、コロナ禍の影響でオンラインツールを利用した活動も加わってきました。多くの方にエンターテイメントと笑顔を広める活動をしています。

ダンスレッスンは、バレエやジャズダンスの要素を取り入れ、ゆったりとおこないます。最近では、手話とダンスを合体させたものも考案しました。障がいの状態などにも配慮して時間制でクラス編成し、工夫しておこなっています。はじめは部屋の片隅でじっとしていた中学3年生のダウン症の女の子が、時間の経過とともに明るく踊れるようになった例もあり、活動の意味に手応えを感じているそうです。

吉川さんには、大きな夢(目標)が2つあります。

ひとつ目はチームの海外進出。「あまりにも突飛だけれど、実現に向けて頑張ります。」とインタビュー時は語られていたのですが…なんと! 2020年9月にオンラインで行われるSDGs*の海外イベントへのFaiRyの出演が決定し、すぐに実現してしまいました。

もうひとつの夢は、小平市内に完全バリアフリーのダンススタジオを作ることです。「大きな鏡があって、駐車場も完備された、誰でも利用可能なスタジオ作りを目指しているんです。」と真っ直ぐな目で語ってくれました。(幸)



2019年、市民まつりのパレードに参加した様子です。立ち上げ当初に掲げていた目標のひとつです。

*17のグローバル目標と169のターゲット(達成基準)から成る国連の持続可能な開発のための国際目標のこと。

第24回 ひとひとのフォーラム

令和3(2021)年2月13日(土)午前10時～
ルネこだいら レセプションホール



コロナ禍でも こどもが笑顔になるためにできること

講師 **湯浅 誠** さん (社会活動家・東京大学先端科学技術研究センター特任教授
全国こども食堂支援センター・むすびえ理事長)

今年度の「女と男のフォーラム」はNPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえの理事長である湯浅誠さんに講演していただきます。

コロナ禍で、こども食堂が果たした役割や困惑する子どもや大人たちの様子を話していただきます。講演を聴いていると湯浅さんのお話に引き込まれていくことでしょう!

「やさしい未来」の実現のために、私たちができることは何なのか、考えるきっかけにしませんか。

申込み: 令和3(2021)年1月4日(月)から市民協働・男女参画推進課へ(先着順)

ひらく

第47号
令和2(2020)年
10月発行

発行/小平市地域振興部市民協働・男女参画推進課
☎ 042-346-9618 FAX 042-346-9575

企画・編集/小平市男女共同参画推進実行委員会

浅野 里美	木島 弘美	玉井 莉子
安食世津子	北川 紘二	藤永 雲羽
岡 武左	高橋 雅子	中丸友里恵
岸 和夫	谷原 裕子	中村 幸世

小平市男女共同参画センター「ひらく」

〒187-0031 小平市小川東町4-2-1

小平元氣村おがわ東 2階

042-348-2112 (電話受付時間
午前9時30分～午後5時)

西武拝島線・西武多摩湖線 萩山駅南口より徒歩5分

*駐車場に限りがありますので、車の来館はご遠慮ください

- 開館時間 午前9時～午後10時
- 休館日 火曜日・年末年始・奇数月の第2日曜日
- 利用対象者 どなたでも(利用登録団体は予約可)
- 問合せ先 地域振興部市民協働・男女参画推進課
042-346-9618



『ひらく』は男女平等な社会、だれもが生きやすい社会、住みやすい地域を作るために役立つ広報誌です。公募市民が企画・編集をしています。一緒に広報誌を作ってくれる実行委員を募集しています。市民協働・男女参画推進課に連絡して下さい。